2023年　全国高校放送コンテスト・愛知県大会

アナウンス部門・朗読部門　全体講評

NHK名古屋放送局　コンテンツセンター

チーフリード　鏡和臣　記

【アナウンス部門】

発声や活舌、アクセントなど、基本的なアナウンスメントは高いレベルです。驚きました。みなさん、練習の成果をしっかり発揮できたと思います。日々、頑張ってきた姿が垣間見え、頼もしくもあり嬉しくもありました。

ここからは、さらにレベルを上げるための話を記します。みなさん、普段アナウンスメントについてどう考えていますか？そもそも、発音や発声は、「本質」を伝えるための「手段」であり、もっと考えたいのは「本質」です。作成した原稿を振り返ってみましょう。多くの生徒が、身近な生徒、先生の活動を書き、談話を紹介してくれました。でも、その原稿であなたのメッセージ（言いたいこと）が伝わったでしょうか？難しい言葉を使う必要はありません。取材して何が見えてきたのか、自分の言葉で発信して欲しいのです。特に原稿のラストコメントです。活動の紹介も同じです。ただコメントするだけでは、姿や形は浮かびません。色や佇まい、表情…、事実を丁寧に紡ぐことで、聞く方は映像のイメージが出来ます。“どう伝わるか”をもっと追及すれば、聞く方は、高校生のあなたに共感します。原稿を作成するプロセスで、もっと「本質」を大事にして欲しいのです。そして、原稿を届けきる「手段」としてアナウンスメントがあるのです。上手く読む必要はありません、本質を伝える熱意を大事にして下さい。

【朗読部門】

発声や活舌、アクセントなど、基本的なアナウンスメントは朗読に出場した皆さんも高いレベルです。読み上げすぎることがなく、概ね聞きやすい朗読でした。みなさん、練習の成果をしっかり発揮できたと思います。日々、頑張ってきた姿が垣間見えました。

ただ、もう一歩前進できると思います。そのためには「自然」なアナウンスメントを意識して欲しいです。無理な力みや不要な緩急は、聞き手に負担を強いるのです。では、自然に話すには何が大事になるのでしょうか。それは「内容の理解」です。「間」を考えてみましょう。みなさん、句点に縛られていませんか？本当にそこで「間」を空ける必要があるでしょうか？意味のまとまりを考えれば「間」が無くても伝わる場面があります。あるいは、小さい「間」でも良いケースもあるでしょう。逆に、ここぞで「間」が必要な場面もあるのです。「間」の長さを決めるのは、話し手ではありません。作品が「間」を決めるのです。内容に見合う「間」があることで「自然」に聞こえてくるのです。そのため「内容の理解」が必要になるのです。上手く読もうとする必要はありません。まず、作品をしっかり理解することから始めて欲しいのです。その上で、音声化に進めば良いと考えます。作品の本質を伝えることを大事にして下さい。